

トレーナー招聘に係る経費の負担について

1 トレーナー招聘に係る経費の負担等

本楽団のさらなる演奏技術向上のため、必要に応じて楽団外の専門家をトレーナーとして招聘することに伴い予算の範囲内で経費を支出することとなるが、その財源として団員に応分の負担を求めるもの。

2 経費を負担する者、負担額及び納付方法等

- (1) 演奏会等に出演する団員は、トレーナー招聘に係る経費を負担する。また、演奏会等には出演しないが自らの希望によりその演奏会等の練習に参加する団員も、当該経費を負担する。なお、演奏会等には出演しないが代理演奏で練習に参加する団員は、当該経費の負担を要しない。
- (2) 負担額は、1人月額500円とする。
- (3) 経費を負担する団員は、演奏会等ごとに団長の指定する月数分の負担額を団長の指定する期日までに、団長の指定する金融機関口座に一括して振り込むか、現金で一括して納付する。なお、振込手数料は、振込みを行う団員が負担する。
- (4) 納付された経費は、理由の如何を問わず返還しない。

<団員とは>

団員とは、経費の負担が団員総会で承認を受けた時点で在籍する（団員名簿に氏名が掲載されている）者及び経費の負担が団員総会で承認を受けた時点以降に入団した（団員名簿に氏名が掲載された）者のことをいう。

<納付の例>

倉敷音楽祭：12月～3月の4月×500円＝2,000円を指定期日までに指定口座に振り込む。

定期演奏会：4月～7月の4月×500円＝2,000円を指定期日までに指定口座に振り込む。

3 収支見込

- (1) 収入例 倉敷音楽祭：2,000円×出演者60名＝120,000円
定期演奏会：2,000円×出演者70名＝140,000円
- (2) 支出例 倉敷音楽祭：練習1回11,137円（交通費、源泉所得税等込み）×10回＝111,370円
定期演奏会：練習1回11,137円（交通費、源泉所得税等込み）×12回＝133,644円
※この他、謝礼の振込手数料等も必要になるため、支払方法について検討を要する。

4 経費負担に係る課題の整理

- (1) 負担額は、団員の負担感や金額的なキリの良さを勘案し、トレーナー招聘に必要最小限なものとしているが、楽団外から有償でトレーナーを招聘することの意義や必要性について、別紙1「トレーナーに要する経費に係る収支について」等により論点を整理し、団員に丁寧に説明した上で理解を得る必要がある。

(2) 規約第14条（「本楽団の運営に必要な経費は、団員会費、事業収入、寄附金、補助金及びその他の収入をもってこれに充てる。」）を具体化するルールが必要であることから、別紙2「トレーナー招聘に係る経費の負担について（団員総会申し合わせ）」を制定する。

(3) 経費負担に係る事務処理について現行の役員で対応可能か否かの検討が必要である。なお、担当例は次のとおり。

- ・制度管理→シニアマネージャー or 新設役員（全体の業務量を見て検討）
- ・収入管理→会計担当 or 新設役員（全体の業務量を見て検討）
- ・徴収事務→振込：各団員が団長の指定のとおり納付し、会計担当が納付を確認

現金：パートマネージャーが受領し、会計担当に納付者名と現金を引き継ぐ。会

計担当は全体の納付を確認（グーグルフォームを活用）

→公平かつ確実な負担徴収のため、団員名簿や演奏会等の出演者名簿（＝負担徴収原簿）の精度向上が必要であり、入・退・休団及び出演者管理事務に伴う、パートマネージャー等の負担増が想定される。

→納付確認等の業務上乘せに伴う会計担当の負担増が想定される。

5 その他

(1) 団員には演奏会等ごとに負担を求めるが、演奏会等の間で収入した負担の流用を行うことは差し支えないものとする。

(2) 団員の負担はトレーナー招聘に係る経費に充当されるものであるが、余剰が生じたときは、団長は役員会での協議を経て、楽団活動を行う上で団員の金銭的負担の軽減となる事項にそれを充てることができるものとする。

(3) トレーナー招聘に係る経費の負担について疑義が生じたときは、役員会で協議の上、対応する。